発行 一般社団法人 日本品質管理学会 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- JSQC規格講習会について事業・広報委員長の立場から見 1-トピックス た講習会の狙いや、今後の展開
- 2-私の提言 104と102間をつなぐ第3者評価制度の開発
- 2-ルポルタージュ 第129回講演会ルポ 3-大沼邦彦氏デミング賞本賞を受賞/デミング賞/8月・9月の入会者紹介
- 4-行事案内/各賞表彰

JSQC規格講習会について事業・広報委員長の立場から見た講習会の狙いや、今後の展開

第47年度事業・広報委員長 斉藤

当学会は第44年度にQを重視する 産官学の緩やかなNetworkとして "Japanese Association for Quality (JAQ:仮称)"を創設していく提言を 行いました。当時、当学会 (JSQC) とQを重視する機関である、日本科学 技術連盟 (JUSE) と日本規格協会 (JSA) の3団体が、3者調整委員会も 設け、Qのあるべき実践・必要な研究・ 標準化・教育啓発に意の有る全ての企 業・教育機関・政策部局・学会・有志 がJAQに参加することを期待した Networkです。現在はこの3者以外の Qを重視する機関も加わり、Network を広めています。

その後、当学会の第45~46年度には、 地域(支部)と部会(研究会)の色合 いを強めた指針を掲げました。

そして、今期47年度はその指針を受 けて、新たな体制がスタートしています。

前置きが長くなりましたが、当学会 の変革期において今年度の事業・広報 委員会としても、この方針の上で、如 何に学会員の皆さまのニーズにお応え できるかを日夜模索しています。

従来の当学会の事業としては、学会 なので当然ながら①研究・発表会(現 在5つの研究部会、6つの研究会が活動 しています)、その他には、②事業所 見学会(学会の研究も机上の論理では 意味がなく、3現主義の観点で現場・ 現物・現実を肌で感じて研究に活かし て頂く機会)、③講演会やシンポジウ ム(品質管理を研究する上で、知って

おく必要のある、先端な内容を学会員 の皆さまに紹介する機会)、④クオリ ティトーク、サロン(講演会やシンポ ジウムでは中々真意を聞き出せない学 会員の皆さまが研究者にフランクに直 接質問ができる場の提供)、⑤ワーク ショップ、フォーラム(当学会単独で なく、関係する機関とも協力して行 う)、⑥講習会(現在、学会では7つの 規格(品質管理を進めていくための標 準)が発行されており、主にTQMに 関するこれまで標準化されてこなかっ た事項を規格化し、これらを定期的に 普及している)があります。

特にこの中で学会の特徴的事業が、 学会の標準委員会と共同で進めている ⑥の学会独自の規格の講習会です。学 会規格は学会内の標準委員会が製作し たアウトプットですが、従来作り手の 標準委員会では発刊後に学会員に講習 会を開催し、規格を購入して使って頂 くまででした。(購入するには、学会 のWebサイトまたはJSAのWebサイト から購入できます)

しかし、規格も読めばわかるとは限 りません。一度の講習会を開催して、 開催日に聞ける学会員もわずかです し、講習を一度受ければ全てを理解で きるものとも限りません。また講習会 はこれまで、学会本部のある東京のみ の開催でした。

上記でも説明しましたが、過去、関 東、中部、関西といった支部を編成し ている地域に偏った学会活動を、改め

て、新たな学会として日本縦断の地区 制に展開を図っている中、②の事業所 見学会、③の講演会、シンポジウムな どは、各地区で設立しているQを重視 する機関(JUSEやJSA等)でも行っ ている事業と重複することも時にあり ますが、⑥は学会発行物の講習会なの で、どこも出来ない事業です。

そのことからも第47年度では、東日 本支部として東京以外に仙台で、西日 本支部として広島と博多で、また、こ れまで既存の支部でも開催してこな かった規格講習会を関西支部の大阪で 講演会として形式を変えて実施しました。

これまで規格講習会は東京一極集中 開催で各地からわざわざ東京まで集 まって頂き、集客数はそれなりの人数 が集まるのとは対称に、今年行った初 開催地区では人数は東京開催ほどの参 加者では集まりませんでしたが、想定 外効果として、アットホームな開催と なり、地区によっては、参加者全員か ら質問をいただき、その質問に講師か ら細かく対応した事例もつくれ、地方 開催ならではのメリットを見いだせて います。学会員の所属都道府県分布は、 やはり既存の支部が存在するところに 集中している傾向です。素直に、従来 足りなかった地区の学会員へサービス の向上に少しでも上記①~⑥の活動が 寄与できると幸いです。

今後も継続して全国での開催を予定 しております。最寄りの開催時には是 非ご参加お願いいたします。

●私の提言●

10⁴と10²間をつなぐ第3者評価制度の開発

慶應義塾大学理工学部管理工学科教授 山田 秀



品質管理の組 織的な推進に関 する第3者評価 制度として認い ISO 9001の認 対 がある。 だ 省統計局による と、日本の事業

所数は2014年で約550万(5×10°)である。 ISO 9001の認証取得組織数は約5万(5×10⁴)であり、100に1組織の割合で ISO 9001の認証を取得している。デミング賞受賞企業数は、2018年までで約 200(2×10²)である。両方とも認証取 得か否か、受賞か否か0か1かの評価である、大雑把には10°オーダーの組織

のうち、10⁴のISO 9001認証取得企業、 102のデミング賞受賞企業であり、104 の次が102である。品質管理に関する個 人の能力の第3者評価制度であるQC検 定の場合には、日本規格協会によると 2017年9月までの合格者数累計は4級、 3級がそれぞれ約1×10⁵、約3×10⁵、2 級が約7×104、1級合格者数が約3×103 である。級のねらいに鑑み3、4級を まとめて考えると、105、104、103と並 んでいる。単なるこじつけなのかもし れないが、直感的には第3者評価は10 刻み程度が適切と思う。また、ISO 9001とデミング賞という104と102の間 の溝は広い。品質管理の第3者評価制 度としてISO 9001からデミング賞の間 に位置するものがあれば、志ある組織 はその評価をもとに、徐々に自組織の 品質管理の組織的な推進の質を向上さ せられるのではと考えている。

第3者評価制度としてよく知られて いるのは、英語検定、TOEIC、TOEFL などの英語能力評価であろう。英語能 力の第3者評価に比べると、品質管理 の第3者評価は困難である。それは、 活動水準が次年々上昇することに起因 する。例えばISO 9001においては、 1987年版では結果が正しいことの提示、 2000年版ではマネジメントシステム、 2015年版では自立的な運営というよう に、約15年単位で要求水準を上昇させ、 社会的要求に対応している。以前の先 端的な活動が、時代とともにどの組織 でも実施されるようになることによ る。言語も進化するのであろうが、品 質管理の進め方の進歩に進化に比べれ ばそのスピードは緩やかである。社会 における品質管理活動の質の全体的な 向上を目指し、JSQCが各種団体と連携 し、104と107間をつなぐ第3者評価制度 の設計、実装を進めてはどうかと思う。

第129回 講演会 ルポ

「技能科学: ものづくりの 技能を科学する!

去る2018年8月6日(月)日科技連東高円寺ビル2階講堂で、「技能科学:ものづくりの技能を科学する」と題して、職業能力開発総合大学校の教員による講演会が行われた。発表順に題目と概要を示す。

1. 技能科学と品質管理:圓川氏

人と結びついた技能を見える化し技術とする。それ を改良することで技能の容易化・習熟化が図れる。こ の活動の基礎となる技能科学について例を交えて解説 した。さらに、広い意味の技能科学にも言及した。

- 2. 身体性認知科学による技能の解明:不破氏、塚崎氏 技能の解明には身体性認知科学が必要であり、動き と測定を結び付けて熟練者との違いを見える化し、指 導に活かすことができる。認知科学を不破氏が、指導 の部分を塚崎氏が説明した。
- 3. 国際技能五輪における技の見える化: 菊池氏

技能オリンピックの成績が芳しくない。参加国の投票で決まる競う技能 (=今必要とされる技能) にキャッチアップして技術者を育成する必要がある。その取り組みについて説明した。

4. AR.VRを用いた技能伝承のスピード化:西澤氏学生は、2次元図面から3次元モデルをイメージできない。そこで、3次元の完成モデルや施工手順を図示するアプリを作成した。これを用いることで、手直しや手戻りを減らし、作業時間を減らすことができた。

5. 構造損傷検出の技の科学的見える化:遠藤氏

構造の欠陥の打音検索の見える化・高度化を図った。 トラクターの冷却口の位置決めの逆解析を行って効率 化を達成した事例を紹介した。

6. 金型製作の匠の技の見える化とe教材開発: 丹氏 匠自身も気づかない技術の見える化を図った。その 結果を、e教材作成に活かし、モノづくり教育に役立 てる算段を進めている過程を紹介した。

総評:全講演を通して、先生方のモノづくりに対する熱意が感じられた。指導方法の工夫や教材開発への取り組みに心打たれた講演会であった。

飯田 孝久(元 慶應義塾大学)

大沼邦彦・元本学会会長 今年度デミング賞本賞を受賞

第38年度本学会会長の大沼邦彦氏 が本年度のデミング賞本賞を受賞さ



れました。同氏は㈱日立製作所 大み か工場、水戸工場副工場長、㈱日立 ビルシステム 代表取締役社長、㈱日 立製作所 代表執行役副社長を経て、 日立オートモティブシステムズ(株) 代表執行役社長、代表取締役会長& CEO、取締役会議長を歴任され、「品 質なくして事業なし|という信念で、 品質を会社のDNAとすべくグロー バルな品質経営を率先推進されてき ました。新幹線用制御システム、上 下水道処理設備等の制御用コン ピュータなど、社会的に多大な影響 力のある製品の信頼性・品質の向上 で、顧客と社会に大きく貢献されま した。また、当学会会長として「社 会の繁栄に向いて学会の観いで学会の観いで学会の観います。世界にはまり、世界にのの観りにいる。



価されるモノづくりの実現を支える 人財育成・現場組織の活性化のため に、グローバル小集団活動の推進に 尽力し、品質の確保・向上と品質管 理の普及・発展にも貢献されました。

本学会としても、同氏の功績が認 められデミング賞本賞を受賞された ことは大変名誉なことです。誠にお めでとうございました。

デミング賞委員会 (委員長 中西 宏明) において、2018年度のデミング賞大賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月14日経 団連会館にて執り行われました。

- 1. デミング賞大賞 株式会社キャタラー (静岡県掛川市)
- 2. デミング賞本賞 大沼 邦彦 氏 日立オートモティブシステムズ株式会社 取締役会議長
- 3. デミング賞

アイホン株式会社(愛知県名古屋市)
Indus Towers Limited(インド)
株式会社オティックス(愛知県西尾市)
海洋王照明科技股份有限公司(中国)
PT Komatsu Indonesia(インドネシア)
JSW Steel Limited, Vijayanagar Works(インド)
Sundram Fasteners Limited(インド)
トヨタホーム株式会社(愛知県名古屋市)
Rane NSK Steering Systems Private Limited(インド)

- 4. 日経品質管理文献賞(文献名五十音順)
 - (1)「構造的因果モデルの基礎」

黒木 学 著

- (2)「こんなにやさしい未然防止型QCストーリー」 中條 武志 著
- (3)「スタンダード品質管理」

仁科 健、川村 大伸、石井 成 共著

(4)「JSQC選書28 品質機能展開 (QFD) の基礎と活用

―製品開発情報の連鎖とその見える化―」

永井 一志 著

2018年8月・9月の 入会者紹介

2018年9月14日の理事会において、下記の通り正会員11名、準会員2名の入会が承認されました。

(正会員11名) ○飯吉 勝久(アンリツエンジニアリング) ○村山 雅彦(スタンレー電気) ○永井 守(TQM Labo コンサル) ○杉山 由紀夫(イチタン) ○小林 敏治(AGC) ○小林 良(ヱビナ電化工業) ○桑原 鉄也(関西電力) ○多田 純子(千葉県立佐倉病院) ○石田 新・田中 延志(日科技連出版社) ○坂本 郁夫(パラマウントベット)

(準会員2名) ○藤原 康平(慶應義塾 大学) ○鳥塚 賢二郎(青山学院大学)

名誉会員:23名 正 会 員:1868名 準 会 員:68名 職域会員:43名

公共会員:17口

NOVEMBER 2018, No.368/3

行事案内

●第408回事業所見学会(東日本・神奈川)

テーマ:富士ゼロックスにおける生産革 新活動を学ぶ 一設備を止めな いための予兆管理のすすめ一

日 時:2018年12月4日火13:30~16:30 見学先:富士ゼロックス(株) 竹松事業所

定 員:30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

申込先:本部事務局

詳 細: http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h301204

●第166回シンポジウム(東日本)

テーマ:人材育成におけるQC検定利活用 日 時:2018年12月20日休10:00~17:00 会 場:日科技連東高円寺ビル2階講堂

定 員:100名 プログラム:

基調講演「品質管理検定のこれまでとこれから:社会人に必要なQCの知識と力量

椿 広計氏(統計センター)

講演

稲葉 喜彦氏 (品質管理検定センター) 事例講演

西山 雄一郎氏 (コロナ)

荒井 秀明氏(小松製作所)

和根崎 誠氏(GSユアサ)

久保山 貴博氏(茅野・産業新興プラザ) パネル討論会

パネルリーダー:

新藤 久和氏(山梨大学)

パネラー:上記講演者 申込締切:2017年12月13日休

詳細·申込:http://www.jsqc.org/q/news/

##+#A · http://www.jsqc.org/q/news. events/index.html#h301220

●第19回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ

テーマ:情報・知識の共有による安全・ 安心の確保

日 時:2018年12月22日出13:00~17:30 会 場:筑波大学東京キャンパス文京校舎

定 員:200名

参加費:2,000円 ※当日払い プログラム:

「品質賞受賞組織に見る、情報・知識 の共有による安全・安心の確保」

中條武志氏(中央大学)

「災害時の安否確認システム 一成功のポイントと難しさ」

妹尾 義之氏(構造計画研究所)

「制御システムセキュリティの重要性

-CSSCの取り組みを中心にして」

高橋 信氏(東北大学)

パネルディスカッション

コーディネータ:

伊藤 誠氏 (筑波大学)

パネリスト:

五福 明夫氏 (岡山大学)

首藤 由紀氏(社会安全研究所) 他 上記講演者

詳細・申込: http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h301222

●JSQC規格 「品質管理教育の指針」 講習会

テーマ: TQMの実践に必要な人材を育てる 日 時: 2019年1月25日金13:00~17:30 会 場: 早稲田大学 西早稲田キャンパス

定 員:70名 プログラム:

- 1. JSQC規格「品質管理教育の指針」 制定のねらい
- 2. 品質管理教育の基本
- 3. 品質管理教育の計画
- 4. 研修プログラムの運営
- 5. 品質管理教育の評価・改善
- 6. TQM推進段階別・部門別・地域 別の品質管理教育
- 7. 全体討論

詳細·申込:http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h310125

<予定>

●特別座談会「TQM再構築と推進の勘所」 (先人の知恵を借りる)

日 時:2019年2月19日以13:30~18:00 会 場:東京都市大学世田谷キャンパス プログラム:

- 1. 品質管理推進功労賞受賞者の自 己紹介・他己紹介
- 2. 座談会

司会:中條 武志氏(中央大学)

3. 受賞者との直接面談・懇親

行事申込先

JSQCホームページ:www.jsqc.org/

本 部: TEL 03-5378-1506 FAX 03-5378-1507

E-mail:apply@jsqc.org 中部支部: TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806 E-mail:nagoya51@jsa.or.jp

関西支部: TEL 06-6341-4627 FAX 06-6341-4615 E-mail:kansai@jsqc.org

各賞表彰

第48回通常総会において、第47年度最優秀論文賞、研究奨励賞、品質技術賞、各1件、品質管理推進功労賞4氏、Activity Acknowledgment賞1氏の授賞および表彰が行われます。

[第47年度 最優秀論文賞]

[Predictive Principal Variable Selection for Linear Regression Analysis]

黒木 学 氏 (横浜国立大学)松浦 峻 氏 (慶應義塾大学)

「品質」Vol. 48, No.1, pp.90-104 (2018)

[第47年度 研究奨励賞]

神 山 紘 樹 氏(早稲田大学 創造理工学部(現)三井物産(株))

『ロバスト・パラメータ設計を用いた最適株式ポートフォリオ選択』

著者:神山紘樹/永田 靖「品質」Vol. 48, No.3, pp.64-75 (2018)

「第47年度 品質技術賞]

東 弘 之 氏 (㈱ベリサーブ)

『要求仕様曖昧度を用いたソフトウェア欠陥分布の推測手法』

著者:東 弘之/西 康晴「品質」Vol. 48, No.3, pp.53-63 (2018)

[2018年度 品質管理推進功労賞]

川 西 哲 詩 氏 ㈱岩崎電機製作所

永 井 庸 次 氏 ㈱日立製作所

久 野 靖 治 氏 ひさの中小企業診断士事務所(元新日本製鐵㈱)

廣野元久氏(㈱リコー

[第47年度 Activity Acknowledgment賞]

大久保 豪 人 氏 早稲田大学